

2026 年 7 月 24 日 第 3559 回例会

於： 横須賀商工会議所

持続可能な
インパクトを
生み出そう

Rotary

<点鐘・開会> 12:30 渡 邊 会長

<斉 唱> 「我等の生業」

<ゲスト紹介> *公益社団法人観音崎自然博物館 館長 山 田 和 彦 様

*米山奨学生 朴 裁 潤 様

<会 長 報 告> *第1回理事役員会 報告

*ガバナー事務所より

・米山奨学セミナー/カウンセラー研修会のお知らせ

日 時：8月30日（日）14:00～17:00

場 所：第一相澤ビル8F

基調講演：米山記念奨学会理事長 相 澤 光 春 様／

よねやま親善大使 ガンバト トウメンバヤル 様

研 修 会：世話クラブとカウンセラーの役割について

地区危機管理委員長 佐々木 辰 郎 様

・第17回日韓親善会議開催のご案内について

日 時：10月26日（月）13:00～

受 付：12:30～13:30

場 所：神戸ポートピアホテル

登録料：35000円

<米山奨学生へ奨学金授与>

<出 席 報 告> *出席委員会 杵渕委員長から7月24日の出席報告

会 員 数	出席対象者数	出席数(ZOOM出席数)	欠 席 数	メイクアップ数	出 席 率
106名	96名	57名(2名)	39名	6名	65.63%

メイクアップ：小澤、山下和男 両会員 横須賀RAC例会出席

兼城、鷺尾 両会員 理事役員会出席 小佐野会員 地区委員会出席

新倉会員 葉山RC例会出席

<ニコニコ報告>

・三 役 公益社団法人観音崎自然博物館館長 山田和彦様、ようこそお越し下さいました。
卓話楽しみにしております。

・石 田、梶 木、井 上、杉 浦、齋藤 眞、八 巻、飯塚 勲、江 沢、野 坂、
松 川、濱 田、植 田、森、萩 原、小山 颯、高橋 勲、松本 惇、鈴木 健、齋藤 眞、
角 井、小林 勲、池 田、杵 渕、澤 田、田 中、前 田 各会員

公益社団法人観音崎自然博物館館長 山田和彦様、お話を聞けるのを楽しみにしています。
本日の卓話宜しくお願い致します。

・三 役 米山奨学生 朴 裁潤君ようこそお越し頂きました。

・柴 田、梶 木、比 護、佐久間、高橋 勲、波 島、齋藤 眞、土 田 各会員

米山奨学生 朴 裁潤君、ようこそお越し下さいました。本日も例会をお楽しみください。

・八 木、齋藤 眞、真 野、加藤 勲、八 巻、岡田 圭、濱 田、植 田、吉 住、渡 邊、
高橋 勲、長 尾、佐久間、根 岸、鈴木 健、齋藤 眞、小山 颯、石 川、平 松、椿 各会員

三浦学苑 軟式野球部 神奈川県大会優勝おめでとうございます。南関東2回勝って
全国へ！

・高橋 勲 会員 硬式は、横浜に完封されましたが、軟式は慶應に逆転勝ちで神奈川を2連覇しました。
南関東でも勝って全国へ。

- ・齋藤 眞、濱 田、権 田、高橋 倫 各会員 岩崎会員の株式会社大神が地元アスリートの活動後押しとして横須賀市に50万円寄付されました。地元アスリートの活躍に期待したいですね。
- ・大野 健、比 護、高橋 倫 各会員 毎日酷暑が続きます。くれぐれも体調お大事にしてください。脱水症状を防ぐためには、3食の食事からの水分がとても大事だそうです。

<卓 話> 「横須賀の海の現状とこれからすべきこと」

公益社団法人 観音崎自然博物館
館長 山 田 和 彦 様

ご紹介にあずかりました観音崎自然博物館館長の山田と申します。私は小さい頃から海の生き物が大好きで、大学も仕事も一貫して海洋生物に携わってまいりました。特に横須賀は、博物館に入って今、10年を経て11年目に入りますが、それ以前に三浦に住んでおり、三浦半島周辺の海の変化をずっと見てまいりました。今、地球の気候変動、特に温暖化が世界中で問題になっております。テレビやネットのニュースなど、遠い世界の話のように感じられますが、実はこの横須賀の豊かな海・山は、ここ十数年で非常に大きく変化をしております。本日は、その概要についてご紹介させていただきます。

三浦半島は、横須賀の東側・西側両方とも海に囲まれております。東側は東京湾、西側は相模湾ですが、それぞれの海の様子が全く違い、東京湾は、観音崎から内側、横浜方向に向かっては浅くなだらかな海、深くても40メートルぐらいしかありません。観音崎から下側は深く、日本海溝につながる深い海域で、深いところでは900メートルくらいあります。それぞれの海の様子を見ていきたいと思いますが、まず東側の北部、八景島に近いあたりは、横浜市から横須賀市へと変わる地域です。もともと干潟がたくさんあった場所ですが、埋め立て地が広がってきています。少し南に下がるとリアス式といい、入り組んだ入江がたくさんありますが、この辺りは自衛隊や海軍基地があり一般の方が立ち入れないような状況になっています。猿島は、自然の海岸が残っておりますが、この辺の島の周りは岩場で、その周辺は砂浜になっています。さらに南側は、かつて広い砂浜が広がって海水浴場でしたが、今、自然の砂浜が残っているのはごく一部になってきています。観音崎は、自然海岸が豊かに残っているところです。相模湾側は、南側から見ると三浦市との境の和田長浜海岸は広い砂浜のある海岸です。その隣が岩だらけの荒崎海岸です。それから長井の港があり、ここにも少し自然の海岸が残っています。天神島は神奈川県天然記念物に指定されています。立石海岸より先が葉山町につながっています。非常に変化に富んだ海岸が広がっていることが横須賀の特徴かと思えます。

いろんな海の様子があるわけですが、まず代表的な海の様子です。2月の一番寒い日に観音崎の海に潜り海藻を観察してきました。観音崎に生えているのはアカモクという海藻。お召し上がりになった方もいらっしゃるかと思います。この辺で生える一番大きい海藻で、長いものだと10メートルを超すような海藻です。砂浜はカイソウが生えにくいと言いますが、アマモという海草もあります。カイソウというのも実は二通りあります。言葉で言うと、どちらもカイソウなのですが、1つは、海の藻と書いて海藻、もう1つは海の草と書いて海草となります。普通、我々が食べている昆布・海苔・ワカメは海の藻の方の海藻なのですが、このアマモは海の草の方の海草です。藻のほうの海藻は藻なので、種で増えたりしないのですが、このアマ



モは哺乳類で言えばクジラのような、もともと陸上にいた植物が海に戻ったという海草なので、花を咲かせて種で増える、ちょっと変わったカイソウです。砂浜は隠れる場所がなく、生き物が貧弱なのですが、アマモが増えてくると隠れる場所が増え、生き物が増えてきます。それ以上に、ブルーカーボンという言葉をお聞きになることがあるかと思いますが、温室効果ガスをカイソウに吸収させるため、このアマモが非常に重要だということで、各地で増やす事業などが行われております。そういったカイソウが生えているところに色々な生き物がいるわけです。メジナという魚、5月ぐらいになると子供がいっぱい増えてきますが、隠れる場所がないと育っていきません。こういうカイソウのある場所が非常に重要になってくるということです。クサフグというフグの一種ですが、普通、魚というのは海の底や海の中で卵を産むのですが、このクサフグはちょっと変わっておりまして、波打ち際の砂浜のところに卵を産みます。魚が水から出て平気なのかと思いますが、卵を産んだらすぐ海に戻ります。卵を砂浜に産んだらカラッカラになりそうですが、実は、砂浜ならどこでも良いわけではなく、この背後に山があってそこから地下水が染み出して、絶えず砂浜が湿っている、そういう場所をクサフグは感じて産みに行きます。満ち潮の時に産むので、引き潮になるともっと水が引いてしまい、要は外敵が来られない。外敵が来られないが、地下水があって卵が乾かない。そういうところを選んで卵を産みに来ているのです。次は、よく口にする魚かと思いますが、スズキやクロダイといった食用の魚もよく見られます。ツムブリと言いましてブリの親戚なのですが、暖かい季節、黒潮の流れがあると南から来る魚がいます。チョウチョウウオという熱帯魚ですが、沖縄に普通にいます。こういう魚も実は横須賀の海にもやってくるのですが、今、お話ししたようにこの魚たちは卵あるいは子供が、黒潮に流されてこの辺にやってくるということで、ちょうど今ぐらいの季節から秋にかけてやってきて、この辺で育っていく魚たちです。カツオやブリと違って回遊性の魚ではないので、一度居つくとそこから離れないのです。秋、水温が下がってくると、この魚たちが住めるような水温ではないのですが、どこかに移るといことができません。それを死滅回遊と呼んでいます。しかし、最近は冬を越して、死滅にならないという状況がだんだん広がりつつあります。バラクーダ、オニカマスという大きくなると1メートルぐらいになる魚がいますが、こういったものも南からやってきています。反対に、冬には冬の魚がいて、ダンゴウオという魚で、大きさは1センチ、2センチぐらいの小さい魚です。その名前の通りコロシとした魚ですが、寒い冬の間だけ出てくる魚もいます。次に、皆さんよくご存知の魚ですが、冬の11月ぐらいになると、浅い磯にたくさん出てくることがあります。アユです。アユというと、清流の魚というイメージがありますが、アユは秋になると川の手近に来て、そこで卵を産んで死んでしまいます。その後、アユの子供が生まれると、一度海に下って、海の中で冬を越して、春になると川を登ってきます。普通に横須賀にいる魚の代表としては、カサゴ・タカノハダイ・マコガレイ・シロギスです。ムツは深海魚で、大人になると1メートル近くになり、深さ百メートル以上の深さに住んでいますが、春先5月6月ぐらいに子供が生まれると、1メートルぐらいの浅いところに子供がいて、大きくなり深海に移っていく魚です。ハダカイワシという魚は、生きた状態で見える機会はほとんどなく、大変貴重な魚です。先程から出ている海藻の話ですが、この辺りで流通している海ぶどうは大体沖縄で採れるものです。しかし、実は横須賀、三浦などでも海ぶどうの仲間が生えていて、これを採って食べると売られているものと同じプチプチで美味しいです。また、テングサの仲間のユカリという海藻もあります。冬の間になると岩の浅いところに生えているヒジキは、販売しているものは黒いですが、海の中に生えている時は茶色です。昆布やワカメと同じ茶色い海藻の仲間です。ワカメですが、実は海の中に生えているときは茶色で、ゆでると緑色になります。それ以外にもいろんな動物がいて、イソギンチャクの仲間のウメボシイソギンチャク・カミクラゲ、それから貝の仲間でボウシュウボラ・ニシキウミウシ・二枚貝のヒオウギ。また、コウイカ・マダコ・ムラサキウニ・ナマコ・ヤツデヒトデ。ウミホタルというエビやカニの仲間の甲殻類で、触ると青白く光ります。フジツボも、エビやカニの仲間です。ウミガメも、実は神奈川県沿岸に結構来っています。東は川崎から西は小田原まで非常に海岸線が長く、1年間になんと百頭近くのウミガメが毎年神奈川県の海岸に流れ着きます。流れ着くというのは、もう既に死んでしまっているのですが、百頭流れ着くということは、それ以上にこの辺にたくさんウミガメが来ているという証でもあります。オオミズナギドリという渡り鳥やイルカ・クジラも来たりします。

海を取り巻く問題は数多くありますが、まずその一つに磯焼けというのがございます。ワカメに近い海藻が生えている場所で岩を覆い尽くすように生えている場所を海の中の林ということで、海中林と呼んでいます。水温が上昇すると海藻が弱ってしまいます。また、海藻をかじってしまう魚、代表的にはアイゴ、クロダイ、メジナが異常に増えてしまい、更に冬場も水温が下がらずに冬場も海藻をどんどんかじってしまうと

磯焼けとなってしまいます。海藻がいっぱいあったのは15年前で、今は海藻が生えない状態が何年も続いています。ウニが磯焼けの原因と言われることもあります。もともとウニがたくさんいたので、海藻が弱ってきて魚にかじられてそこにウニがとどめを刺したと言われていました。急激に海藻がなくなって磯焼けが進んでしまいました。磯焼けのほかにも海の問題がたくさんあります。海のゴミ問題です。木の葉っぱ、木の枝、魚の死骸等の自然物は自然に分解するから大丈夫ですが、人が作ったゴミ、特にその中でもプラスチックです。人間が自然を破壊しようと思ってプラスチックを作ったわけではなく、壊れにくいものを作っていたら自然に戻らなくなって害を及ぼしているわけですが、台風とか大嵐の後が特に多いです。どうしても、もともと陸上にあったものが嵐で海に流されてそれが流れ着く。陸上のゴミをきちんと処置したり、あるいは飛ばないようにしたり、減らすということが非常に大事になってきます。プラスチックもバラバラになって細かくなって飛んでくると、拾い集めるのが非常に困難ですし、魚が食べてしまうなどで問題になっています。海に来てバーベキューをやる人がゴミを置いて行ってしまうなども問題になっています。また、水温が上がってきたことで、もともといない生物がどんどん増えています。ミツボシクロズメダイ・ツノダシ・ハタタテダイという熱帯性の魚や、タツマキサザエ・クロチョウガイという、もともとは沖縄周辺にしか見られなかったような貝がいたり、ワモンダゴ・シマダコという暖かいところにしかいないタコや、アオボシヤドカリという熱帯性のヤドカリ・シラヒゲウニ・ウミヘビなどがいたりします。関東周辺の海の水温の状態と潮の流れなのですが、黒潮が、三浦半島、相模湾の方にいつ流れてくるかというのが大きな問題になっています。その他に外来種が増えています。身近な海が昔はどうだったのか、今はどうなっているのかを見ていくのが大事です。海のごみ拾い、ゴミの再利用など今後も活動が続けていくことが大切だと感じております。皆様のご協力をいただけるよう、今後とも是非よろしく願いしたいと思います。

<閉会・点鐘> 13:30 渡 邊 会長

週報担当 松 川 太 郎